

## 実習の感想

北野高校

今回、野生動物学初歩実習 1 回目に参加して感じたのが、これからの実習がとにかく楽しそうだなということです。まず、5 期生の発表では、どの方も堂々としていてかっこよく、私もこうなりたいと感じました。5 期生の中でも関西大倉の先輩方の発表は、北野の先輩方と違って初めて聞く内容だったこともあって、とても興味深く、楽しく聞かせていただきました。その中で、アロマザリングや  $\alpha$  オスなど知らなかった言葉がたくさんあり、難しいと感じる内容もあったのですが、全て詳しく説明してくださり、とても分かり易かったです。さらに、知らない言葉が沢山あったことで、私ももっといろんなことを知っていきたくて強く思う一つのきっかけになりました。特にオス個体同士の関係性についての発表で、 $\alpha$  オスつまり群れのリーダーに着眼し、そのリーダーを取り巻く周りの個体の行動から、関係性を見ていく上で、はじめに予想していた結果とは違う結果になってしまったというところに、生きているものの複雑さや一筋縄ではいかない事に対する面白さを感じ、動物に対する興味が増しました。この実習では、主に動物園にいる動物たちを観察していくと思うけど、個人的には野生動物の方により興味を持っているので、動物園で観察したことを基に自分で野生動物との違いを調べていきたいです。今回の発表時も、寿命に関して動物園の動物と野生動物との違いを討論されていて、とても面白かったです。

次に、動物園での実習では、実際に生きている動物たちを間近で見ながら、先輩や先生方のごとく間近で見えてきたからこそ知っているような貴重なお話を聞くことができ、実習に対する現実味を感じることができました。特に、聞いた内容で印象に残っていることは、個体の識別と動物の赤ちゃんについてです。個体の識別は、サルの種類によって見るポイント・判断するポイントが違って、難しく感じました。ただ、チンパンジーの赤ちゃんに関してはしっぽの色が違ったり、顔が肌色だったり大人の個体とは違う部分も多くて、個体の識別をすることでこのような個体の差を知っていけるのは面白いなと思いました。また、チンパンジーの赤ちゃんについて学部生の方から、チンパンジーの赤ちゃんはヒトとは違い1日の大半を抱っこされた状態で過ごし、寝転がらせると右手と左足または左手と右足を動かして抱きつこうとする行動をとると聞き、興味を持ったので後で調べてみた結果、このような行為を行う理由のひとつとして体脂肪率の低さがわかりました。さらに、これらの行為は他の霊長類にも共通していることを知りました。具体的に言うと、ヒトの赤ちゃんの体脂肪率は15%~25%なのに対して霊長類の赤ちゃんの体脂肪率は約5%しかなく、赤ちゃん個体のみで体温調整することは難しいためお母さん個体が1日中抱っこすることで、体温調節の役割を担っているということです。これは、ヒトとその他の動物との違いですが、それ以外に共通点も知りました。また赤ちゃんに関することになってしまうのですが、動物は脳が赤ちゃんだと認識した時点で、本能的に可愛いと感じるようにつくられているということです。このような脳の仕組みが作られた理由として、親が赤ちゃんを捨てないように

生存のアドバンテージを獲得すると言う事があることを知りました。私は、このことから現在存在する全ての生物の全ての現象にはそれぞれ理由があり意義があるんだなと感じました。

私が、これから約1年間かけて研究していく中でもこの事は常に頭の中に入れておいて、より深いところまで知っていこうと思います。まだ、今回の実習だけでは全然何について研究していくのかわからないけど、これから何回も動物園に行って、たくさん観察する中で焦らずに本当に自分が知りたいと思うことを見つけていきたいです。さらに、もっともっと動物について詳しくなりたいので、個人的にも気になったことは積極的に質問したり自分でも調べてどんどん新しい情報を知っていきたいです。

以上

## 初回実習レポート

北野高校

### 五期生の発表

五期生の発表を見ていて、みんな自由に観察などを通して研究していて、楽しく自分のしたい研究をしておられたことが分かったし、自分が観察などから得た結果などをどのようにまとめられたら良いのか参考になった。発表のためにどのようにまとめたらいいのかある程度分かっているとデータ集めも集めやすくなると思った。また、みんな原稿を基本的に覚えておられ、発表も聞きやすく分かりやすかったので自分もあれぐらい聞きやすい発表を一年後したいなと思った。

動物園は今回の実習ではいくことができませんでしたがこれから動物園に通って行く中で自分の観察した動物はもちろんそれ以外の動物についても観察したりして楽しみつつ発表に役立てていきたいと思います。

### これから頑張りたいこと

これから頑張りたいことは動物のしっかりとした観察です。同じ動物をずっと追いつけるというのはとても大変なことだし、ただ見るだけでなく自分の必要とするデータを集めるというのはとてつもなく大変なことだと思いますが、自分の観察したい動物をじっくりと観察し、集めることのできた大量のデータから自分なりの考察を導き出し、頑張ったかいがあるような発表を一年後できるように頑張りたいです。

## 第一回野生動物学初歩実習を終えて

北野高校

実験の方法や疑問点の正確さ、一種類の動物に対してここまで掘り下げられるのか、来年自分はこんなレベルの研究ができるのか、という不安。これが、先輩方の研究成果を聞いて一番初めに抱いた感想です。ポスターやパワーポイントも推敲を繰り返して、グラフや表は全員に分かりやすいようかみ砕いて説明する、発表を聞いて浮かんだ疑問に対してもその場で相手の納得するような答えを返せる必要がある。発表を通して自分自身の理解度も確かめられるものなのだ、と改めて難しさを感じ、そこまで高めるには、一年という時間だけでなく個人個人の実習への姿勢とどれだけ具体的に仮説を立てるかにかかっているのだと思います。特に、チンパンジーの雄個体同士の関係は、観察対象と見なければならぬ項目が多いのにもかかわらず図によって個体同士の関わりが理解しやすいように工夫されていると感じました。アジアゾウの個体間の距離を鼻の長さを基準に三段階に分け、仮説と結果の相違、その原因を調べていて、立てた仮説と違った結果が出ても、どうして違うのかを考える更に次の仮説を立ててみるということも精度を高める上で重要だと学びました。そして、実際に動物園に行ってみるとまず個体識別が難しく、何度も教えてもらってやっと子供と成体の区別がつく程度で、これから何度も観察を続けて仕草や体格から見分けられるようになりたいと思っています。また、今まで動物園に行くことが何度もあった中である種類の生き物を長時間見続けることはなかったのとでも新鮮さを感じました。雨が降っていたこともあり、チンパンジーが雨をよけて屋根のあるところに集まる様子やゴリラが地面に下りないように天井や遊具をつたって移動する様子を見ることができました。霊長類は、人のように手で道具を器用に扱ったり、遊びをしたりすることが多いので研究できる範囲が広いと思います。一方で爬虫類は哺乳類に比べて少ない分ひとつひとつの動きに対し集中して観察ができるので根気が必要ですが性格や種類ごとの違いを見つけられると面白いのではないかと思います。鳥類も、鳴き声や嘴、かぎ爪の使い方を調べてみると鳥の群れや社会的な構造についても調べられるだろうと考えました。今はまだ何の動物にするかは決めきれませんが、一種類をじっくり見ていると、以前には気に留めたことのなかった設備や植物、遊具、個体それぞれの性格に興味を湧くようになり、動物の種類による檻の仕様や地面の工夫も知りたいと思いました。動物園毎の展示方法と餌の違いにも興味があります。自然に近い姿を見せようとしているのか、来園者との近さを大切にしているのか。果物や野菜などを与えるようにしているのか配合飼料がメインなのか。他の動物園にも行って調べてみたいです。三月の実習はコロナウイルス蔓延防止のためになくなってしまったので残念ですが、四月からまた自分の興味のある動物と疑問を様々な視点と分野から見つけられるように取り組んでいきます。これから一年間何度も見て調べて考えて、人に聞いて、私自身だけでなく発表を聞いてくれる人にも納得のいく、且つ新しい発見のある研究にしたいと思っています。

## 2月16日第一回実習の感想

北野高校

この野生動物学初歩実習に初めて参加させていただき、動物に対する新しい意識を持つことができ、良い機会になりました。初めは、一緒に活動する1年生はどんな人なのか、また実習にきちんとついていけるか、と正直不安でした。ですが、先生方、大学生の方や5期生の先輩方のお陰で、関わりのなかった1年生とも楽しく動物や実習のことを知ることができました。

5期生の発表では、聞いたことのないテーマの発表を聞くことができたのでとても良い学びになりました。北野高校の課題研究発表会で一度聞いたことのある発表もありましたが、そのテーマについても、より理解を深めることができたと思います。5期生の発表の中で私が特に気になって注目していたことは、なぜその動物にスポットを当ててそのことについて研究をしようと思ったか、ということです。疑問を抱くところは人それぞれで、私はおそらく気が付かないような点に着目している方もいらっしゃったので、私の中の視点を増やすことができました。

京都市動物園では、主にゴリラ、チンパンジー、アジアゾウを見ました。それぞれの動物に詳しい方々にその動物の習性や雄雌の違い、動物園にいる個体の識別方法を教えていただきました。アジアゾウでは、大学生の方や5期生の方も見たことがないとおっしゃっていた、あくびを見ることができ、年の離れた2個体が起こした接触も見ることが出来ました。チンパンジーでは、雄と雌の見分け方を知らなかったのも、お尻の赤いものが雌だと知った時にはとても驚きました。個体識別では、特にチンパンジーのオトナオスの2匹の識別を髪型や座り方で行い、見分けることが難しかったです。また、これから自分がどのようなことについて調べたいかじっくり考えながらまわったので、今までならしなかった考え方や新しい意識、視点が生まれました。しかし、これはとても難しく、今回では何について調べるかはまだ決まりませんでした。

この第一回野生動物学初歩実習で、なんとなくですが動物や実習のことをつかむことができたので、これから一年間自分の視野や考え方を増やすことができるように頑張りたいです。そのために、自分がしっかり調べることができるテーマを探すことを次回から頑張りたいです。今日の5期生の発表や動物園の散策を参考にして、次回、より多くのことを考えて実習に取り組みたいです。少しの疑問を大切に、次回が今回よりも良い実習にできればいいなと思いました。

私は、今回の第一回の実習に参加して、第五期の先輩方のプリマーテス研究会での発表を聞き、その後、京都市動物園にて飼育下の動物を観察した。

はじめに、一部の先輩方の発表を聞かせてもらった感想を述べたいと思う。まず、チンパンジーのアロマザリングの研究について、子育てを放棄する動物がたまにいることがあると聞いたことはあったが、母親以外の個体が野生でも飼育下でも子育て行動をすることがあると初めて知り、驚いた。そして、アロマザリング行動とは具体的にどのようなことで、相手のいる遊びとどのような違いがあるのかもっと知りたいと思った。オス同士の関わり合いについての研究の中で、ニイニがオトナオスの仲間入りを果たそうとするも、タカシやジェームスに攻撃されて、母のコイコに守ってもらおう、という内容のものがあつた。これを受けて、チンパンジーにも人間と同じように母性的なものが備わっているのだろうと思い、ヒトに最も近い動物、といわれても今まではいまいちピンとこなかったチンパンジーに、少しだけ、親近感が湧き、チンパンジーについて深く観察してみたいと思った。アジアゾウの研究では、元々日本にいた美都とラオスから来た4頭の関係がそれほどよくないという事柄があつたが、どの個体がラオス出身で、どの個体が日本にいた個体なのか、お互いの中ではっきりと認識されているのかと疑問に思った。どの発表でも、研究方法、結果を詳しく書き、自分のほしい結果が得られても、得られなくても、観察から考察をしっかりと導いていたので、今年自分が研究するときどのようなことに気をつけてまとめたらよいか、とても参考になり、有意義な時間を過ごすことができた。

京都市動物園での観察で一番印象的だったのは、学部生のみなさんや、五期の先輩方が、一目で個体を認識していたことだ。正直、今はどれも大差がないように見えてしまうが、特徴をしっかりと捉えて、ずっと見てみると、少しずつ判別できるようになると思うので、近いうちに、個体の顔と名前が一致できるようにすることを目標にしたい。また、今までは動物園で動物を見てもかわいいな、くらいしか感想をもっていなかったが、今回、説明を聞きいて、群れの中の関係や個体の背景を知り、ひとりひとりの行動(例えばロジャーとニイニの兄弟間の遊びや、食料の争奪、ロジャーを抱っこするローラ(図1参照)など)に注目して観察していると、新しい視点から動物を見ることができるようになり、これまでにはなかった、人間のやりとりを見るような興味深さを感じることができた。チンパンジーやゾウだけではなく、ほかの動物も見ることができて、今後の実習がますます楽しみになった。

今回の実習を通して、自分がどんなことに興味、関心をもっているのかはまだわからないので、これからの実習では、様々な観点から観察して、できるだけ早く、最後までやり通すことができる研究対象と研究テーマを決定できるようにしたいと思う。また、先ほども述べたように、個体の識別ができるように観察していきたいと思う。



图 1

## 野生動物初歩実習の初回について

関西大倉高校

今回の野性動物初歩実習で、まず最初に聞いたのは、先輩方の発表でした。そこにいる、すべての人の視線が、発表を写し出したモニターに注がれていました。発表のあと話していると、本番の発表とは程遠い出来だったと、先輩はおっしゃっていましたが、長い期間やっていただけあって、しっかりとまとまった発表ばかりでした。今回見た発表は、野性動物の研究をするにあたって、先輩方のなされた努力が端々から伝わってくる内容で、特に動物同士の関係性に着目した発表には、観察力の高さが発揮されていて、自分も同じように研究、発表できるのか不安になるほど凄かったです。着眼点自分とは違うので、発表の内容にも驚かされるばかりでした。動物園の見学では、先輩方の発表を聞いたことによって、今までとは違う着眼点で彼等の行動を観察することができました。今まではただ楽しむ場所だった動物園が、違う視点から見ただけで、いろいろ気づきを与える場所が変わり、人と動物との比較から、文化的な差異を見つけるという目標に一歩近づくことができました。軽く観察しただけでも様々なパターンのコミュニケーションや、行動が見られたので、今後の観察で見つける研究課題は多くなりそうです。特に象の首を上下させる仕草や、チンパンジーが子供を抱き上げる行動が、とても鮮明に頭に焼き付いています。他の動物も同じで、それぞれにそれぞれの行動の意味があるように見えて、さらに興味がわきました。これから僕は、野性動物とのかかわり合いを通して、人間の社会性の起源がどのような形だったのか、霊長類の社会から学んでみたいです。今までになかった新しい観点から、物事を見る目を養っていくことも今後の課題になりました。頑張りたいと思います。

## 初回レポート

関西大倉高校

今回初めての実習を終え、どんな動物を研究するかや、友達関係、今後の実習についてなど様々なことを考えました。

最初に、5期生の先輩方の発表を聞いて、自分が考えていた物よりも遙かにレベルが高く、非常に驚きました。特に、動物園内で飼っているチンパンジーの関係についての発表が印象的でした。チンパンジーがどのような行動を取るかだけでなく、その行動にどういった意味があるのかを自分たちで定義して、それぞれの個体がどういった関係にあるのかを考察していて、かなり本格的な内容に感銘を受けました。また、どの研究においても対象動物の観察時間は僕の予想を遙かに超えており、自分にもこんな研究が出来るのかと今から不安でなりません。

次に、京都動物園での散策では、小さい頃以来の動物園ということもあり、純粋に楽しむことが出来ました。先輩達の発表に出てきた霊長類など、たくさんの興味深い動物たちを観察することができ、何の動物を研究するか今も迷っていますが、研究の対象は霊長類に限定されているわけではないらしいので、まだ先輩方が研究したことの無いような新しい動物にチャレンジしようと考えています。

最後に、全体を通して僕はとても楽しかったです。初回の実習ということもあり、北野の生徒はもちろん、自分の学校の生徒ともあまり面識が無かったので最初は非常に不安でした。しかしすぐに話せるようになり、男子間では北野生も含めてLINEを交換し合えるほどの仲になりました。先輩方もとてもフレンドリーで、気軽に質問することもでき、とても居心地が良く、次の実習が楽しみになりました。

そしてこれからは、今は部活もしていないので動物の研究に打ち込んでいこうと考えています。もちろんまだ何を研究するか、どんなことについて調べていくかは決まっていないのですが6期生の中で学校、男女関係なくグループを作り、みんなで協力して1つのことを研究したいと思います。

いろいろお世話をかけるかもしれませんが、一生懸命取り組もうと考えているので1年間どうぞよろしくお願いします。



## 初回レポート

関西大倉高校

### ・5期生の発表について

5期生の発表を聞いて感じたことは、「想像以上に深く観察している」ということです。チンパンジーでもゴリラでも象でも、それぞれが決めた動物を細かく研究していることがよくわかりました。中でも、チンパンジーの社会性についてや象の鼻を使った意思表示などの説明はわかりやすかったです。

### ・動物園の散策について

動物園には久しぶりに行ったので、広く、浅く見て回ろうと思ったのですが、いざ見て回るとそれぞれの動物を見るのに熱中してしまいました(笑)。5期生の発表をもとにチンパンジーやゴリラを見ると「さっき言っていたのはこういうことか」という発見もいくつかありました。

また、京都市動物園は小動物から大型動物、水中動物と数多くの種類がいたので、楽しく見て回ることができました。ただ、雨だったので動物たちの走り回る姿やペンギンが泳ぐところが見ることができなかつたので残念でした。次回に期待しています！

### ・これから頑張りたいこと

今回の散策だけでは研究したい動物は決められなかったので、まずはその動物と研究テーマを決めること。そして、その動物についてだれも知らないような発見をすることです。

## 2020年2月16日 第1回 京都大学野生動物学初歩実習

関西大倉高等学校

2020年2月16日の京都大学野生動物学初歩実習の初回の実習に参加し、とても楽しい中でいろいろな動物のことを学ぶことができました。初めて会う人たちが多く中で緊張していましたが、様々なかたにやさしくしていただいて、これから精一杯頑張ろうと思えた1日でした。

この初回の実習で先輩方の発表を聞いた時、先輩方は自分で決めたテーマについてとことん調べ、自分なりの考察を立てていたということが伝わりました。また、どのテーマも興味深いものばかりで面白く、自分も頑張ろうという気持ちになりました。さらに、アロマザリングやグルーミング、環境エンリッチメントなど、知らない単語が多数発表に使われていて少し不安になりましたが、「実習をまじめに受けていれば専門的な用語とかは自然と覚えられるよ」というアドバイスを先輩から頂いたので、とにかくほかの人において行かれないよう、頑張ろうと思います。

次に、私が京都市動物園に行って抱いた感想ですが、京都大学野生動物学初歩実習に参加できたということもあってか、今までと違う視点で動物たちを観察することができました。つまり、小学校のころはただただ、かわいいな、かっこいいなと思いながら眺めていただけでしたが、今回の実習ではそれぞれの動物の特徴や、「なぜそのような行動をとるのか」という風なことを考えながら観察することができました。しかし、チンパンジーやゴリラだけでなく、マンドリルやヤブイヌなど魅力的な動物が多く、どのようなテーマを基に研究していくか決めきれないで終わったのは残念でした。

最後に、これからどう頑張っていくかを考えた時、まずはゴリラやチンパンジー、アジアゾウなどの個体識別ができるようになりたいと思いました。なぜなら、個体識別ができるようになるという調査しやすくなるというアドバイスを先輩にもらった、ということに加え、名前がわかるようになるとその動物に愛着が持てるようになるのではないかと考えたからです。実際に、ゴリラのキンタロウやゲンキ、チンパンジーのロジャーやニイニにはかなり好感がもてるようになりました。なので、今後は研究の対象にする動物を選びつつ、各動物の個体識別ができるようになれるよう頑張ります。またできれば、動物たちの行動心理を学びたいなと思いました。

## 第一回 レポート課題

関西大倉高校

### 〇 5期生の発表について

- ・発表の際、アロマザリング・グルーミングなど動物に関する専門用語が多数使用されており分からなかったので順次覚えていきたいと思った。
- ・3人の発表は各々よく仮説、観察、考察、まとめと非常に分かりやすかった。
- ・中でも個人的にはオス個体同士の関係性について課題設定をし、研究発表していたものに興味関心を持った。
- ・グルーミングと物理的距離においては相関関係があるがグルーミングと良好な関係においては相関関係が見られていないとのことだったので私自身、真相を深く追究してみたいと感じた。
- ・2人のポスター発表を見て自分も作成したいと思った。
- ・5種類の餌入れを作るにあたって、経済的に量産が可能な材料を用い、尚且つ製作過程が簡易であるものと環境リッチメントに基づかれた道具に心ひかれた。
- ・像の鼻接触についての発表では仮説が全て崩れてしまったが考察は私自身も非常に納得した。
- ・本当に、人間と同じく像も普段あまり接触しないものとは一回の接触で濃密な時間を過ごすために鼻を絡めているのだとしたらすごく面白いなと思った。

### 〇 動物園での散策

→早退のため省きます。

### 〇 これから頑張りたいこと

- ・5期生のような関係を6期生の皆さんと築いていくこと。
- ・どの動物に焦点を置いてこれから研究するのか早い段階で決め、一年間頑張りたい。
- ・第一回の顔合わせの際、素早く発表に対する質問をすることができなかつたのが心残りなのでもっとメモの量を増やしたり、頭の回転を鍛えたりすること。
- ・進路を模索中でいい刺激を得ることができるのではとこのプロジェクトに参加したのでそのことを忘れず一生懸命活動に取り組んでいくこと。
- ・グループで研究をすることになったら高めあえる関係を維持していくこと。
- ・フィールドワークにおいては限られた時間の中であるから毎回あらかじめ今日はどこに焦点を置いて観察するのかを決めておくこと。
- ・なるべく集まりに参加し、少しでも多く先輩方、6期生の皆さんの考え方や感じ方に触れ、自身を成長させること。
- ・発表が苦手なので慣れていくこと。

## 野生動物学初歩実習 6期生 第1回レポート

京都大学 教育学部 乾 真子

### ◎実習について

2月16日、野生動物学初歩実習6期生の第1回の活動を行った。WRCで顔合わせをした後、京都市動物園に行き園内を散策した。参加者は、学部生6名、6期生10名、5期生5名、大学の先生方4名、高校の先生方2名で、私が当初予想していたよりもかなりの大所帯となった。顔合わせでは、5期生それぞれがプリマーテス研究会で行った発表をもう一度行った。動物園散策はグループに分かれて行ったが、ここでも5期生が6期生に各個体について説明したりと、かなりの大活躍をみせてくれた。学部生の準備不足でバタバタした部分もあったが、当日最後にきいた6期生の感想や初回レポートをみた限りでは、初回実習としては概ね成功だったのかと思いたい。

### ◎感想レポート

はじめの顔合わせでは、突然その場で決まったことであったが、5期生にプリマーテス研究会での発表を行ってもらった。改めて1年前のことを思い出してみると、たった1年で高校生はここまで成長するのだなあと思った。ただきいているだけでも6期生はおもしろくないだろうと思ったので、1人ひとつずつ発表に対して質問もしてもらった。何も知らない高校生が突然質問をする、というのは難しいかと思ったが、おもしろい質問やこちらが少し驚くような質問まで出てきて、高校生だからといって侮れないなと思った。

京都マラソンのためバスが使えず、WRCから京都市動物園までは歩いて移動した。移動中も、5期生の5人が6期生の間にうまくはいつて色々な話をしてくれた。動物園では4つのグループに分かれて動物を観察した。2回グループ替えを行い、1回目は5期生や学部生、先生方の得意な動物、2回目はそれに加えて高校生のみたい動物をグループで自由に観察した。私はチンパンジーをメインにみるグループで活動をした。初回実習ということでかなり緊張していたので、個体識別や自分が2期生として活動していたころの話、5期生の研究の話、野生下でのチンパンジーの話や群れの話など色々と用意して身構えていたが、ほとんど私が出る幕はなかった。というのも、5期生が個体識別の方法や各個体の性格や特徴的な行動、群れ構成や自分の研究の話など積極的に6期生に語りかけてくれ、私はほとんどそれを補足するかたちとなった。また、先生方と高校生・学部生が話す機会もたくさんあり、高校生・学部生の双方にとって刺激になったと思う。直近まで観察・研究をしてきた高校生、これから研究を始める高校生、学部生、今研究をしてらっしゃる京大の先生方、高校の先生方が一度に集まって一日活動をする、というのはこれまでの実習ではなかったスタイルであったと思うし、新鮮で私自身がとても楽しかった。これからの実習としては、まず6期生に自分なりの動物の見方を見つけてもらうことが第一だと思う。まだまだ漠然とした興味・関心ばかりの子が多いと思うので、適宜実習後の発言やレポートを通して、こちらから興味

関心を引き出して具現化してあげたいと思う。高校生・学部生ともにまず1番に苦戦するポイントとして研究テーマ決めが待っているが、高校生が本当にやりたいことを引き出してサポートできるように頑張りたいと思う。

## 高校生実習レポート(2/16)

京都大学総合人間学部 3回 横坂楓

今年度最初の実習が実施された。朝の顔合わせでは、6期生、5期生、新しく実習に参加してくださることになった先生方、そして学部生アドバイザーがほぼ全員集まった。野生動物研究センターの3階では収まり切れない人数となった。過去5年の蓄積である。

6期生には緊張した空気が流れていた。同じ学校でもほぼ会話を交わしたことが無い人たち、学校も違う人たち。対して5期生は大丈夫かい、と言いたくなるほどフランクにしていた。5期生同士と、5期生-学部生間はとても仲が良い。まだ互いに素っ気ない6期生たちが、これからどのように打ち解けていくのか、楽しみである。

16日はあいにくの天候で、大文字山の登山は叶わなかった。予定変更で、顔合わせして5期生の研究の発表を聞き、その後すぐ、野生動物研究センターを出て、京都市動物園まで雨の中を歩いた。京都市マラソンとも被ったので、東大路を避け、平安神宮あたりを通った。ちょうど平安神宮の鳥居近くを通る時、女子マラソンの最初のゴールのアナウンスが聞こえた。縁起の良い幕開けを感じた。

動物園でお昼を取り、4チームに分かれて動物園を巡った。2回ローテーションし、1回目は学部生や先生方の得意な動物、2回目は前半は1回目と同様に、後半はチーム内の高校生の見たい動物を観察した。

私はゾウをメインに見るチームに属した。京都市動物園のアジアゾウを見たのは、10月の実習以来である。久しぶりに見てみると、どの個体も柵で仕切られることもなく、鎖でつながれることもなく、全員が一緒に同居していた。そして信じられないことに、唯一のオス個体秋都が、最年長の美都の近くで甘えていた。そしてその横で冬美がつまらなそうに鼻で地面を叩いていた。5期のゾウチームの研究では、秋都と美都が仲良くないことが論の前提となっていたくらいには当たり前なことだった。それがどうだ、今やあの2頭が仲良くなっている。5期のゾウチームで、今回唯一実習に来てくれた高橋さんと、二人で顔を合わせていた。これで4頭の子ゾウの内年齢の小さい3頭が美都を慕うようになってしまったら、慕われる対象でなくなってしまった冬美はどうすればいいのか。気になる問題は多い。

ゾウを見ている中で、山本先生とお話する機会を得た。5期のゾウチームの研究では、個体間距離と行動の間に相関関係を見出せなかったことで先に進めなくなってしまったが、山本先生が、ソーシャルネットワーク分析をすることを提案してくださった。私自身も必要だと思っていて、やろうと思って挫折したことだったのでとてもありがたかった。もしこれが実現すれば、5期中途半端になってしまった研究を、もう少し先に進めることができる。6期の高校生は、今までと比べて、空気感がほんわかした子が多いと感じた。今までは志望動機の文面で選考を行っていたということもあり、4,5期などは自己表現のできる子が多いように感じていたが、今期は、自己表現より、単純に動物が好き、という子が多いように感じた。特に面白かったのはある高校生が、ナマケモノがとても好きで、将来コスタリカに行ってナマケモノの保護団体に加わりたいという夢を語ってくれたことである。外見や振

る舞いだけ見ると少し意外だっただけに、面白かった。  
6期生、どうなることか。とても楽しみにしている。

## 2/16 分報告レポート

同志社大学文学部二回 文元 りさ

### 1. 概要

2/16 に行われた高大連携プロジェクト第六期生の顔合わせ会及び初回実習について、簡易的にまとめた報告書である。

### 2. 内容

学部生は、朝 8:30 に PWS に集合し、今期の流れについて打ち合わせを行う予定であったが、六期生の集まりが想像以上によく、9 時前には六期生の大半が集合していた。五期生も 5 人この日の実習に参加した。

諸先生方の自己紹介に始まり、五期生の自己紹介、六期生の自己紹介が続き、学部生の自己紹介をした。五期生は去年の研究内容を簡易説明、六期生は各々出身校と好きな動物を紹介したが、霊長類を挙げた学生は一人と少なかったため、今期の研究対象は霊長類以外が多いのではないかと予想する。しかし、小動物やナマケモノに関しては、個体数と個体識別が難しいと予想するため対象はある程度こちらで指定するのが善いのではないかと提案する。そのうち、先月のプリマーテス研究会での発表を六期生に向けて五人全員が行った。

京都マラソン開催のため、徒歩で動物園に移動したのち、昼食時間を 40 分設け、徳山さんと山本先生にご助力いただき、チンパンジー、ゴリラをそれぞれ 40 分ほど観察したのちグループごとに園内のほかの霊長類を周回した。

所感としては、高校生の興味は霊長類に存分に向けられており、五期生の六期生への対応も柔軟なため、たまに五期生が顔見世に来るのも六期生にとってはよい助力となるのではないかと考えられるが、学内での交流がある学生も一定数いるため、初回実習から無関係の私語が盛んで妨げになる可能性も否めないのではないかと推測する。

個人的な報告としては諸霊長類を観察していて、新しい発見があったのがスローロリスが意外と動き回り、しかも思いの外俊敏なこと、そして小型霊長類のフサオマキザルが南米のチンパンジーと呼ばれるほど知性が高く、彼らを対象としている研究者がそのあだ名が嫌いなこと、である。フサオマキザルで何か研究出来たら新しきく面白いのではないかと感じた。

今後の動向としては、コロナウイルスの猛威が何月まで続くか不明である点が研究内容決定を後ろ倒しにしてしまう対策を講じる必要があること、自宅課題をそのサポートになるような内容で考えることが必要だと提起する。

## 野生動物学初歩実習 6 期生レポート第 1 回

池田智遥

### 1. 5 期生の発表を聞いて

6 期生に 5 期生の発表を聞いてもらえたことは、大変良いことだと思いました。6 期生達は、5 期生の発表を聞いたことによって、今後の実習についてのある程度のイメージを持つことができたと思いますし、ゴリラやチンパンジー、ゾウ、アカゲザルなど今後課題研究の対象にするかもしれない動物たちの多少の知識をつけることができたとも思います。5 期生からは、5 人も参加してくれて、大変ありがたかったです。この発表があるかないかでは今後の実習に大きな影響があったであろうと思いました。

### 2. 動物園を散策して

動物園を散策して、自分の知識不足を痛感しました。ゴリラ舎の担当をしまして、ゴリラについては自分が実習生のころに観察したこともあり、ある程度知識もあり、高校生達からの質問に答えることもできましたが、ゾウやアカゲザル、そのほかの霊長類についてはほとんど知識が無いので、今後の自分の課題であると感じました。ゴリラ達は雨が嫌いなのか、ずっと室内にいたので、子ども達も外にいるときほど活発な動きを見せてくれませんでした。ここでも、5 期生の子達に自分の対象種についていろいろと説明してもらえたことはありがたかったと思います。つい最近まで 1 番対象種を見てきた人たちなので、特に、どうして自分がその対象種をみることにしたかという動機を聞いたのが良かったと思います。

### 3. これから頑張りたいこと

今回の第 1 回実習に参加して、これからはゴリラやチンパンジーなどの大型類人猿だけでなく、それ以外の霊長類や、霊長類以外の動物についての知識をつけて観察していこうと思いました。実際は難しいかもしれませんが、高校生達がどの種を対象にしたいといっても、できるだけ対応できるようになればと思います。

## 野生動物学初歩実習 レポート 2020/2/16

京都大学 法学部 1回生 池山 睦衛

### <5期生の発表について>

みなさん専門的な知識を踏まえた上で、それぞれのテーマについて、数値化された結果を元に自身の考えを発表されていた点が素晴らしいと感じました。まずは5期生のみなさんがどのようにしてそのような専門的な知識を獲得したのか、そこに興味が湧きました。さらにその知識を踏まえて、自分なりのテーマを設定し、結果を数値化することはかなりの労力が必要になったのではないのでしょうか。私自身が高校生の頃、理系の研究をしていた経験を踏まえてそのように考えました。特にそれは、「結果の数値化」についてです。目で見たと、すなわち主観的で、アナログなものを、数値化し、客観的で、デジタルのものにすることは、なかなか難しい。化学や物理の実験であれば、容易にその数値化の手法は思いつきやすいですが、生物の、しかもマクロな世界での観察が主となる実験となると、数値化の手法を、高校生が考え出すのは難しいことです。その点、5期生のみなさんほどの研究も、上手くこの「数値化」がされていて、素晴らしかったです。また、私は全くの素人ですので、知識もあまりない状態で質問をしましたが、その質問に対しても丁寧に回答してもらい、その点も一人の研究者の姿として、みんなのお手本になってもらいたいものだと思います。

### <動物園での散策について>

私はゴリラの観察担当として、高校生に私が出来る限りの説明をしました。拙い説明でありましたが、みなさん真剣な顔つきで話を聞いてくださり、さすが高校生であり、一人の探検者だなあと嬉しく思いました。我々学部生スタッフの説明を聞きながら、高校生のみなさんは、終始熱心にゴリラを目で追っていました。その様子から、何か面白いことはないか？テーマどうしようか？何かヒントになるものをゲットしたい！そんな印象を受け、自分が高校生の頃、研究テーマを決めようと色々考えていた頃を思い出しました。大阪から1時間以上かけて、京都の地に動物の研究をしにこようと思う彼らの熱心さにこちらも負けてはいけないと思いました。また、以下、個人的なことですが、前回京都市動物園を訪れた際(2019/12/22)にはライオンのナイルがまだ生きていましたが、今回訪れた際には、亡くなっていたので悲しく感じました。京都市動物園の発表で、環境エンリッチメント上、ライオンを動物園で飼育することは困難であるため、ナイル以降はライオンを飼育しないとしています。少し寂しいですが、京都市動物園の判断は、動物にとって良いものだと思います。今後の動物園のあり方を考えさせられました。

### <これから頑張りたいことについて>

自己紹介の時にも話しましたが、動物の研究については、私は大学で1年間一般教養の授業で学んだ程度であり、門外漢であります。そのため6期生とともに多くを学んでいくことになるだろうと思いますが、高校生の頃、理系の研究(探究活動)をしたという多少の経験をもとに、学部生スタッフとして、自分ができることは何かを考えながら高校生のみなさんのお役に少しでも立ちたいです。1年間よろしくお願いします。